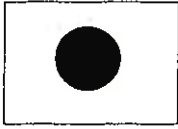


愛媛県神道青年会会報

24



平成2年6月30日
発行
〒798
宇和島市和霊町145
愛媛県神道青年会
広報委員会
☎(0895)22-0197

会長挨拶

愛媛県神道青年会会長
柳原 宰

本年度の神社界は、「大嘗祭に始まり大嘗祭に終わる」と言っても過言では有りません。しかしながら、現在、悠紀田・主基田が公表されていないために諸々の神事が斎行できないという由ゆしき事態も起こっております。先般、東京での過激派による三神社の

参りました。本年度の神社界は、「大嘗祭に始まり大嘗祭に終わる」と言っても過言では有りません。しかしながら、現在、悠紀田・主基田が公表されていないために諸々の神事が斎行できないという由ゆしき事態も起こっております。先般、東京での過激派による三神社の

慶び申し上げます。さて、春祭も一段落して当会も諸活動を展開して行く時期を迎えました。本年度も会員の皆様方の積極的なご参加を宜しくお願い申し上げます。又、県神社庁を始めとして、県内各神社宮司様方、先輩諸兄の皆様方にも昨年同様、変わらぬご理解、ご支援をお願い申し上げます。先般、神社本庁での神青協総会の折に、御田村副会長共々、昭和天皇武蔵野陵を参拝して今秋の御大礼が盛大裡に挙行されます事をお祈り申し上げ、我々も啓蒙活動に全力を傾けることをお誓い申し上げます。

未熟であり、信仰は十分に確立されて居らず、その影響力も微々たるものですが、地道な活動の積み重ねの中に大きな意義があることを信じて、お互いに研鑽に励んで参りたいと思っておりますので、本年度も宜しくお願い申し上げます。

我々青年は当然にその修行は不足し、その思想は未熟であり、信仰は十分に確立されて居らず、その影響力も微々たるものですが、地道な活動の積み重ねの中に大きな意義があることを信じて、お互いに研鑽に励んで参りたいと思っておりますので、本年度も宜しくお願い申し上げます。

特にこれからは県内主要都市において、大嘗祭についての街頭演説、パンフレット配布、情宣活動等に力を注いで行きたいと思っております。本年度は従来の諸活動にくわえて、先ほどの大嘗祭の啓蒙活動を展開して行きますので、役員・会員の皆様方には非常に忙しい一年となり、ご迷惑をおかけしますが、御大礼を目の当りに出来る時期に巡り会った幸せを今一度噛みしめていただいで、積極的なご協力を切にお願い申し上げます。

- ・会長挨拶
- ・神道青年全国協議会創立四十周年記念大会報告
- ・平成元年度神青協中央研修会開催
- ・平成元年度活動報告
- ・平成元年度寄付助成者御芳名
- ・平成二年度予算書・活動計画
- ・南予方面で大嘗祭情宣活動実施
- ・新入会員紹介
- ・事務局便り
- ・即位式 實祚無窮

祝祭日には
国旗をかかげましょう



えひめ

神道青年全国協議会

創立四十周年記念大会 定例総会報告

本年、神道青年全国協議会(以後神青協)が創立より四十周年を迎え、其の記念大会が去る四月二十三日に明治記念館にて開催されました。翌日には定例総会が神社本庁にて開催され、本会からも柳原会長外三名の会員が参加致しました。ここに簡単に報告申し上げます。

「神青協創立四十周年記念大会」

日時 平成二年四月二十三日

午後三時

会場 明治記念館

出席者 会長 柳原 幸

副会長 御田村俊一

会員 曾我部英司

田中 聡哉

OB 長曾我部延昭氏

星野 暢広氏

清家 貞宏氏

次第 (第一部) 記念式典

(第二部) 記念講演

演題「自然をみつめて—ホ

ワイトアウトの時代—

講師 藤原新也氏

—元会長清家貞宏先輩表彰さる—

本大会には来賓・招待者(神青諸先輩)を始め全国各単位会より約四百名余りの出席者があり、盛り上りのある大会となった。全国の神青会員が一堂に集う機会としては毎年一回開催される神青協中央研修会があるが、本大会の様には百名余りもの神青協或は各単位の大会の大先輩・OBの方々が集まれるというの、さすが周年記念大会ならではのことである。

さて第一部に於て周年事業表彰者の受彰式が行われたが、四国地区からは当県の清家先輩を始め、香川(琴陵容世氏)徳島(門家茂樹氏・福本正臣氏)の四名の方々が表彰を受けられた。ここに改めて誌面を借りてお祝い申し上げます。

第二部の講演では、絵画・写真・小説・旅行などの分野で活躍をしている藤原新也氏が、氏独自の感性や洞察力を以て民族・宗教・自然論を展開していったが、なかなか興味深い講演であった。祝宴については記すまでのことは無

いが、開宴に先立って各神青会員より一名が募られて各々県名が書かれた提灯を掲げ、江戸前の獅子や鷹師を先頭に木遣歌と共に照明がおとされた会場内を練り歩く、といった趣向が凝らされていた。そして記念大会にふさわしい盛り上りをみせながら午後八時閉宴



となったのである。

神青協の今後益々の隆昌と発展、並に次期五十周年記念大会が本大会以上に盛大なものとなることを祈念申し上げます。

平成2年度役員

会長	柳原 幸
副会長	湊 照彦
事務局長	御田村 俊一
事務	吉田 充邦
教化	武智 正人
"	浅海 宜英
"	額田 照彦
"	久保 浩丸
事業	池内 公和
"	井上 忠史
"	田内 一弘
広報	久保 盛浩
"	佐藤 豊
監査	都子野 清彦
顧問	堀 司
"	長曾我部 延昭
"	清家 貞宏
"	矢野 哲夫

事務局

〒七九八
宇和島市和霊町一四五一番地
和霊神社内

えひめ

「神青協第四十二回定例総会」

日時 平成二年四月二十四日

午前十時

会場 神社本庁

出席者 代議員 柳原会長

御田村副会長

傍聴者 曾我部・田中会員

本総会は午前十時に開会し昼食をばさんで午後四時に閉会した。其の間審議々の連続である。本総会は、当県神青会が毎春開催する定時総会の全国版であり、ここで全国規模の活動方針や事業計画が決定される。

私を含めて地方の末端会員にとつて神青協(中央)の状況や活動内容などは馴染薄いものではあるが、神青協という組織は、我々の負担金などに依って維持され、運営は我々が送り込む代表(理事)(現在四国地区は酒田敏郎氏徳島・川村公彦氏高知の二名、四県巡回当番制)によつて行われる組織なのであり、我々は決して無関心であつてはいけないのである。

神青協平成二年度事業計画(詳細略)

(神宮式年遷宮関係)

一、神宮式年遷宮奉賛運動の推進

(総務関係)

- 一、新会則に基づく諸制度の確立
- 一、会費値上げに伴う財政の正常化・健全化

一、「神青協の将来を考える委員会」(仮称)の設立

◎ 中央研修会の開催

時期 平成三年三月上旬

場所 四国地区(香川県)

(広報関係)

一、会報「神青協」発行の確実化

一、「神青協通信」発行回数増化と内容の充実

(渉外関係)

一、靖国神社公式参拝・国家護持早期実現運動の推進

一、北方領土早期返還運動の推進

一、建国記念の日奉祝運動の推進

一、国旗を掲げ国家を斉唱する運動の推進

一、国際交流について

一、創立四十周年記念事業関係

一、「北方領土の碑」修復並びに奉告祭斎行

一、創立四十周年記念会報「神青協」の発行

一、奉祝祭典斎行並びに記念式典の開催

期日 本年六月二十五日

場所 北海道納沙布岬

一、創立四十周年記念会報「神青協」の発行

一、奉祝祭典斎行並びに記念式典の開催

期日 本年六月二十五日

場所 北海道納沙布岬

一、奉祝祭典斎行並びに記念式典の開催

開催

期日 本年九月二十六日〜二十七日

場所 祭典：榎原神宮

式典：榎原文化会館

一、紀元二千六百五十年啓蒙活動の継続推進

一、皇室問題関係

継続推進

◎ 「皇室問題関係」

一、「大嘗祭前の大祓―五畿七道の

大祓」の実施

右記各事業の中で特に会員諸氏に注目してもらいたいものが二つ。一つは本年度の「中央研修会」が「平成三年の三月上旬、香川県で開催される」ということである。十年に一度四国地区に開催当番が回つて来る(全国十ブ

ロック)この大会は、主管こそ神青協であるが主催は四国四県の神青会であり、計画から運営まで全て我々が行なわなければならない。これは四国の看板を背負った一大催事であり、四県神青のメンツにかけても成功裡に終わらせなければならない。もう一つは「大嘗祭前の大祓―五畿七道の大祓」である。今秋の即位の御大典を控え各地方で種々の奉祝事業が実行されるであろうが、神道青年会は其の実践部隊として積極的に参加、協力して行く所存である。そして「延喜踐祚大嘗祭式」

各種授与品・記念品

(株)三愛工芸

〒310 茨城県水戸市袴塚3丁目4-2
TEL (0292) 51-2051(代)
FAX (0292) 53-5844

神社授与品・神社用品奉製

奈良の 大和奉神堂

株式会社

〒630 奈良市山村町782番地
TEL (0742) 62-3235(代)
FAX (0742) 62-3228
郵便振替 大阪6-317928
取引銀行 南都銀行帯解支店

えひめ

に定められている「大祓」を復興、本年八月全国一斉に執り行われるよう啓蒙活動に努めたい。

―由に、より多くの会員諸氏の協力と参加を切望してやまないものである。―

昭和天皇武蔵野御陵参拝報告

去る四月二十三日の四十周年記念大会出席に先立ち柳原会長と共に愛媛県神道青年会代表との意を込めて昭和天皇武蔵野御陵を参拝して参りました。

―新宿より中央線特別快速に乗り高尾駅に向う。車窓の外にはなつかしい武蔵野の景色が流れ去り(私事で恐縮ですが、私は大学時代杉並区西荻窪に三年間住んでいました)新宿より距離を置いて行く程にビルの量と緑の量が反比例して行く。そして四十分強で終着高尾駅。駅に降り立ち回りを見廻らすと緑の陵線が四方を囲み、一瞬ここが東京都内なのかと疑ってしまう。が、この様な地なればこそ大正天皇様や昭和天皇様の御陵が定められたのだとも納得をする。

駅前から御陵前行き直通バスが出ていた。其の時の乗客は我々と老婦人が一人。今日が平日ということと折からの雨ということもあって恐らく参拝者は少いだらうと会長と話す。約十分程

の乗車で終点、以外に街から近い。

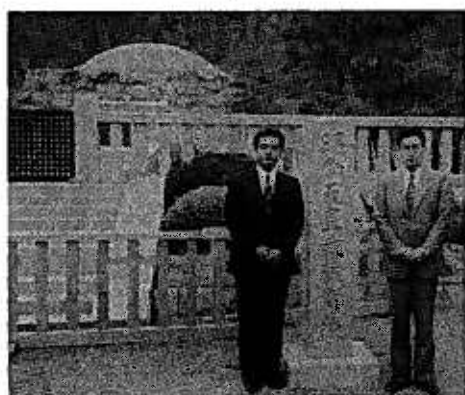
降車場から少し歩き右に折れるところには見事なけやき並木の参道が延びていた。大げやきが左右に整然と立ち連らなる石畳の参道に何かしら都会的な雰囲気を感じ会長と感心をする。約五〜六百メートル程の其の参道を進むと数人の衛士が立つ正門に着く。そこから玉砂利の敷かれた広場をぬけ更に本参道を奥へと進む。先程の外参道とは異なり本参道の左右には大きな杉の木が巨大な緑の壁面を作るが如く立ち並び、其の外奥は深い樹林となっていた。折からの雨に洗われて「緑したたる」と云う言葉がびつたりとくる。「ここは御神域なるぞ」ともの云わぬ木々がそう我々を圧倒するかの様である。

やや深めの玉砂利を踏みしめて先づは武蔵御陵へと向う。会長との予想に反し参拝者の姿が多い。地方からの団体参拝者・老人のグループ・家族連れ・若者達などとすれちがう。ここにも昭和天皇様の御聖徳を思わずにはいられない。十分程進むと前方が大きく開けて、正面に鳥居が立つ御陵に着く。後に参拝する大正天皇多摩御陵が六十年程の年月を経て石は苔むし垣内の種々の木々も大きいのに対し、武蔵野御陵の方はまだ新らしい御陵らしく石は白く、垣内の木々も若い。手水を済ませ

石段を登り拝礼をする。御崩御より一年余りの時間が経っているせいなのだろうか不思議にも万感迫る思いが胸にこみ上げ涙するということは無かったがしかし、念願が今ここに達せられたという安堵感そして清しさを感じる。

―昭和天皇様の御聖徳よ永遠に―
会長と記念撮影を済ませ武蔵御陵を離れる。次に参道の道順により貞明皇后多摩東陵・大正天皇多摩御陵をも参拝し、会長共々とても清しい気持ちで帰路に着いたのである。

―一日も早く、昭和天皇様の御聖徳を仰ぎ敬ひ奉り、それにふさわしい神宮が御造営されることを願ってやまな



副会長 御田村俊一 以上

御装束・御祭具の御下命は

(有) 竹 重

京都駅から歩いて13分お立ち寄り下さい。
☎600 京都市下京区西洞院花屋町上ル
TEL (075) 371-0394(代)
FAX (075) 341-6966
振替 京都6-12431

御装束・御祭具 調達

(株)三上装束店

京都市中京区室町御池下ル
電話 (075) 221-4041

えひめ

平成元年度

神青協中央研修会開催

自 平成二年二月二十一日

二月二十二日

北陸・金沢に於いて

(出席者)

柳原会長・湊副会長・御田村副会長
吉田事務局・久保盛浩・久保浩丸
田中聡哉・三吉真司

海は、古来より日本文化の根幹である稲作と共に、日本人と非常に深く関わりを持って来た。それは、日本が四面を海に囲まれていると言う自然条件の中で、極めて当然の事と言はざるを得ない。

日本文化は、暖流と寒流が織りなす気候条件・海からの豊富な海産物等によっても強く影響している。それらを日本人は愛し、又、自然の思恵として捉え、古来より崇敬畏怖の対象として来た。神話に言う「海幸・山幸」を上げるまでも無く、海は、深い関わりの中に、信仰の対象となって来たのである。

「海と日本文化」

海の幸と日本文化

と題して今回、北陸の地・金沢で神青協会員四百有余名が参加のもと盛大に研修会が開催された。

講師に、近茶流宗家・柳原敏夫先生、又、神宮祿宜・矢野憲一先生をお招きし、水の国・森の国日本の姿、一万年の伝統に根差す魚食の食文化養殖業の発展に伴う海洋神と氏子との関係の崩壊、水質環境問題、又、海(あま)と天(あま)との結びつき等々、垂平思考・垂直思考と多方向に亘る熱心な、意義深い研修会が行なわれた。

四季の移ろい、自然の変化に敏感に反応し、衣・食・調度品に至る迄、自然との調和・協調を重んじて来た日本民族、科学の発達・情報の氾濫に伴い護るべき何かを見失いつつあるのではないだろうか。神青会員として、又、日本人として先人の知恵に、驚嘆し、我身の愚しさに出会うに良い機会となりました。以上報告とします。

田中聡哉

平成元年度 活動報告

日時	内容	場所
元・4・18	第十九回定時総会	伊予鉄福祉会館
4・21	日本を守る会役員会	松山コミュニティーセンター
4・23	全神協総会	神社本庁
5・17	第一回役員会	国際ホテル松山
5・22	北方領土返還委員会	イヨテツそごう
5・31	四国地区神青連絡会	高知県
6・9	第二回役員会	神社本庁
6・10	北方領土返還総会	イヨテツそごう
6・15	会報若竹二十二号発行	
8・7	第三回役員会	榑会館
8・7	女子神職との合同研修会	榑会館
8・4・5	四国地区神道行法錬成会	徳島県
8・9・10	全神協夏期セミナー	神社本庁
8・19	観月神楽の夕	美川河崎神社
8・21	南予地区研修会(雅楽)	宇和島和霊神社
9・5・6	第十六回四国地区神青氏青合同研修会	高知県
9・16	観月神楽の夕	南海放送
10・30	初詣案内ポスター發送準備	神社本庁
11・29	四国地区神青連絡会	内子町
12・1	奉祝紀元二六五〇年ポスター發送準備	宇和島和霊神社
12・2	第四回役員会	にぎたつ会館
12・2	中予地区研修会(大嘗祭)	にぎたつ会館
二・1・24	新年互礼会講演(大嘗祭)	にぎたつ会館
1・31	会報若竹二十三号発刊	
2・21・22	全神協中央研修会	金沢市
3・5	第五回役員会	神社本庁
3・17	東予地区研修会(曆について)	石鏡神社



神社授與品
記念品奉製

東京都北区堀船3丁目20番13号
株式会社 長谷川製作所
代表取締役 長谷川和夫
電話 東京(03)912-6161

各種授与品・記念品奉製

(株)新日本工芸

水戸市河和田町丹下3891
電話(0292)51-0997

神社庁助成金

(金二十万円也)

平成元年度助成金

平成元年度

寄付助成者御芳名

(順不同)

県神社庁様を始め県内の支部・神社・神職の方々に、当会の活動を御理解・御支援頂き、多くのご厚志、賛助金をお寄せ頂きました。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

(金十万円也)

石 鎚 神 社 武 智 昭 典 殿

伊 豫 豆 比 古 命 神 社 長 曾 我 部 勝 殿

(金七万円)

和 靈 神 社 三 輪 田 元 亮 殿

(金五万円也)

愛 媛 県 護 國 神 社 波 爾 莊 殿

(金四万円也)

庁 宇 和 島 支 部 殿 庁 松 山 支 部 殿

庁 久 万 支 部 殿 庁 大 洲 支 部 殿

(金三万円也)

庁 伊 予 支 部 殿 矢 野 哲 夫 殿

一 宮 神 社 沼 崎 守 文 殿

高 繩 神 社 矢 野 神 社

(金二万円也)

桑 原 八 幡 神 社

石 丸 金 五 殿

八 幡 神 社

庁 宇 和 海 支 部 殿

高 嶋 神 社

吉 岡 太 瑯 殿

柳 原 警 根 殿

鳴 重 元 殿

土 居 神 社

庁 八 幡 浜 支 部 殿

玉 生 八 幡 神 社

八 幡 浜 八 幡 神 社 氏 子 会 殿

熊 野 神 社

平 田 茂 光 殿

奥 坂 神 社

田 邊 捷 殿

野 間 神 社

宮 本 坦 殿

嘉 母 神 社

鴨 頭 司 殿

弓 削 神 社

石 川 漢 見 殿

碓 掛 天 満 宮

小 池 稜 威 雄 殿

保 内 八 幡 神 社

宮 原 淨 人 殿

明 日 八 幡 神 社

矢 野 直 臣 殿

須 賀 神 社

川 崎 弘 美 殿

国 津 比 古 命 神 社

藤 原 裕 博 殿

德 川 神 社

庁 北 条 支 部 殿

大 宮 八 幡 神 社

井 上 忠 衡 殿

武 智 宣 住 殿

真 鍋 和 敏 殿

矢 野 神 社

十 亀 興 美 殿

高 繩 神 社

田 窪 吉 典 殿

正 岡 重 慶 殿

三 嶋 大 明 神 社

三 島 神 社

三 島 神 社

天 一 稻 荷 神 社

波 賀 部 神 社

雄 郡 神 社

松 山 神 社

三 島 神 社

日 招 八 幡 大 神 社

南 豫 護 國 神 社

總 社 大 明 神 社

三 島 神 社

三 島 神 社

湯 嶋 天 神 社

藏 王 神 社

高 浜 八 幡 神 社

武 智 勲 殿

横 田 清 光 殿

武 智 信 八 州 殿

庁 忽 那 支 部 殿

武 智 圭 邑 殿

高 市 誠 司 殿

正 岡 定 幸 殿

能 田 隆 三 殿

玉 井 正 素 殿

前 田 讓 殿

森 本 茂 章 殿

庁 南 宇 和 支 部 殿

越 智 大 介 殿

菊 池 博 恭 殿

竹 内 美 堯 殿

龜 山 和 磨 殿

矢 野 宗 保 殿

高 橋 三 郎 殿

佐 藤 伊 都 男 殿

安 藤 潔 殿

菅 光 雄 殿

高 市 良 史 殿

池 内 公 和 殿

玉 井 次 明 殿

山 下 幸 伸 殿

大 内 明 殿

大 内 信 磨 殿

和 氣 須 賀 雄 殿

えひめ

徳威三嶋宮 別府頼雄殿
 白山神社 高市守久殿
 高家八幡神社 都子野政子殿
 八社神社 田野正貳殿
 二名神社 高市慶久殿
 三島神社 玉井貞臣殿
 當田八幡神社 額田重則殿
 勝岡八幡神社 武智雄三殿
 天満神社 沖中誉富殿
 湊三嶋大明神社 宮本稚秋殿
 渡部定詮殿

(金三千円也)

三皇神社 熊本真克殿
 八幡神社 大野勘蔵殿
 客王神社 二神通訓殿
 丸之内和霊神社 三瀬勝史殿
 (金二千円也) 西條神社殿
 若宮八幡神社 三好捷三殿
 岡森神社 寺谷正徳殿

(金二千円也)

五城天神社 曾我武義殿

第十八回 定期総会援助金

(金三万円也)

伊曾乃神社 葛城光彦殿

(金一万円也)

巖島神社 柳原馨根殿

一宮神社 矢野哲夫殿
 伊豫稻荷神社 星野暢広殿
 伊豫豆比古命神社 長曾我部勝殿
 三島神社 大西元彦殿
 (金五千円也) 松山神社 県神社庁殿
 正岡定幸殿
 県女子神職会殿

「観月神楽の夕援助金」

(金五万円也)

河崎神社 梅木匡人殿

(金三万円也)

伊豫稻荷神社 星野暢広殿

(金一万円也)

伊豫豆比古命神社 長曾我部勝殿

石鎚神社 武智昭典殿
 吹揚神社 田窪多理甫殿

(金五千円也)

勝岡八幡神社 庁久万支部殿
 武智雄三殿

(金三万円也)

正八神社 小野義興殿
 八柱神社 土居重喜殿
 住吉神社 辻田盛雄殿

「南海放送サンパーク 神楽の夕援助金」

(金四万円也)

南海放送株式会社 殿

(金一万円也)

石鎚神社 庁松山支部殿
 武智昭典殿

(金五千円也)

愛媛県護國神社 波爾荘殿

「新年互礼会援助金」

(金二万円也)

和霊神社 三輪田元亮殿

伊豫豆比古命神社 長曾我部勝殿

(金一万円也)

姫坂神社 沼崎守文殿

(金五千円也)

八幡神社 県神社庁殿
 庁松山支部殿
 清家貞宏殿

えひめ

平成二年度 予算書

歳入の部

項目	本年度予算	前年度予算	比較増減	付記
1 会費収入	350,000	300,000	50,000	年度会費, 新年互礼会費
2 助成金	200,000	200,000	0	神社庁助成金
3 寄付金	1,300,000	1,200,000	100,000	県内神社神職, 総会その他援助金
4 雑収入	50,155	21,929	28,226	会報広告料, 預金利子
5 繰越金	449,845	538,071	△ 88,226	
合計	2,350,000	2,260,000	90,000	

歳出の部

項目	本年度予算	前年度予算	比較増減	付記
1 会議費	400,000	200,000	200,000	総会, 新年互礼会, その他
2 研修教化費	500,000	550,000	△ 50,000	四国ブロック(研修会, 靱錬成), 観月神楽, 女子神職合研, 地区別研修会, 研修旅行
3 事業費	600,000	775,000	△ 175,000	初詣案内(ポスター, テレビスポット)
4 広報費	160,000	160,000	0	会報24号・25号
5 事務費	100,000	95,000	5,000	切手, 葉書, 封筒, その他
6 備品費	10,000	10,000	0	
7 旅費	250,000	200,000	50,000	中央総会, 夏期セミナー, その他
8 慶弔費	60,000	40,000	20,000	御祝金, その他
9 分担費	200,000	205,000	△ 5,000	神青協拠出金, 四国ブロック2種, 北方領土
10 雑支出	20,000	20,000	0	振替手数料, 菓子
11 予備費	50,000	5,000	45,000	
合計	2,350,000	2,260,000	90,000	

歳入合計 2,350,000円
 歳出合計 2,350,000円

愛媛県神道青年会

会長 柳原 幸

平成二年度 活動計画

(事業委員会)

- ① 初詣案内ポスター製作配布
- ② 初詣案内テレビスポット放映
- ③ 大嘗祭の啓蒙運動
- ④ 神青(当県)再発足20周年式典の立案
- ⑤ 役員会決議事項

(研修教化委員会)

- ① 四国地区合同研修会
- ② 四国地区靱錬成会
- ③ 神青協中央研修会
- ④ 神青協夏期セミナー
- ⑤ 玉串料裁判の支援
- ⑥ 観月神楽の夕
- ⑦ 研修旅行の実施
- ⑧ 女子神職との合同研修会
- ⑨ 新年互礼会
- ⑩ 役員会決議事項

(広報委員会)

- ① 会報「若竹」二十四・二十五号発刊
- ② 庁報神青欄
- ③ 庁報神青号(年一回)
- ④ 役員会決議事項

えひめ

南予方面で

大嘗祭情宣活動実施

当青年会では六月十日開催の八幡浜市大嘗祭講演会(講師 大宮四郎先生)に加勢すると共に九日十日と情宣車二台を導入し南予各地で啓蒙運動を展開した。特に繁華街では徒歩にて柳原会長をはじめ会員挙って奉祝を呼び掛けパンフレット等を配布した。宮司様の中には「右翼の」とき……という声も聞かれたが、我々も当初受入て頂く方は少ないのではないかと不安があったのは事実である。ところが、地域性はあるにせよ南予地区の皆様には多少なりとも御理解御賛同を頂いたと肌で感じ取り、まだまだ日本の心は失われていないと確信を得た。今後共神職たる使命感をもち中予東予地区での大嘗祭情宣活動に望みたいと思う。

尚、情宣車を御提供頂きました椿神社様、和霊神社本多先輩には厚く御礼申し上げます。

(参加者) 清家顧問 柳原会長 漆副

会長 御田村副会長 吉田

事務局 久保盛浩 武智正

人 久保浩丸 田内一弘

吉田充典 真鍋豊和 和氣

省一 田中清之



- ① 昭和四十二年七月二十八日
- ② 松山市勝岡町乙九一五
- ③ 勝岡八幡神社



武智国吏

- ① 昭和四十四年二月十五日
- ② 伊予郡砥部町大南三二七
- ③ 大宮八幡宮
- ④ 車・トーキングツアー
- ⑤ 神職本来の使命とは何かを考え、自己研鑽にはげみたいと思います。



和氣省一

- ① 生年月日
- ② 住所
- ③ 神社名
- ④ 趣味
- ⑤ 抱負

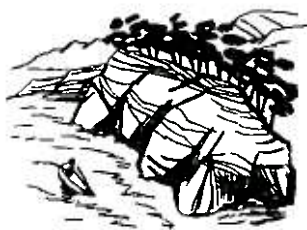


- ① 昭和四十年二月一日
- ② 松山市上野町甲五十
- ③ 伊豫豆比古命神社
- ④ 音楽鑑賞・トーキングツアー
- ⑤ 神道人の活性化を目指して努力していきたいと思っています。



真鍋豊孝

- ④ ドライブ・旅行
- ⑤ (まだまだ半人前ぐらいの自分ではありますが)先輩の皆様方、今後ともよろしく御指導、おつきあいのほどお願いします。



えひめ

事務局便り

○恒例の「神楽と雅楽の夕」を左記の通り開催致します。多数の御参集をお待ち申し上げます。

※ 八月二十五日(土) 午後七時

大洲八幡神社

※ 九月二十一日(金) 午後六時半

南海放送サンパーク

○四月二十三日、東京明治記念館に於て神青協四十周年記念式典が開催され、当会顧問清家貞宏先輩が記念表彰されました。心よりお祝い申し上げます。

○六月十三日、明治神宮会館に於て神道政治連盟結成二十年記念式典が開催され、当会は長年に渡る青年神職としての積極的な活動を認められ表彰を受けましたので御報告申し上げます。

○最近神職のモラル・マナーの低下またそれ以前の常識の欠如がいわれております。当会においても返信ハガキ等ルーズな方がいらつしやいます。必ず返信はお願いします。

○本年会費(五、〇〇〇円)未納の方、会費は活動の基本です至急送付願

ます。

〔振込〕 徳島七―三七三五八

愛媛県神道青年会

〔郵送〕

千七九八

宇和島市和盤町一四五―

神青事務局 吉田充邦

即位式

寶祚無窮

八千萬の國民が、溢る、慶祝と、への、く感激の心を抱いて、待ちに待ったその日は来た。時これ昭和三年十一月十日、今日こそ、幾久しき春秋に富ませ給ふわれ等の陛下が、登極の大儀を行はせ給ふ佳き日である。陛下には本日午前、賢所春興殿大前において、皇祖の神靈に對し奉り、御即位の大典を擧げさせ給ふ旨御親告あり、午後、紫宸殿に出御、天津日嗣の高御座に登らせ給ひ、四海に君臨し給ふことを、御自ら國民に宣示あらせられる。

惟ふに、皇祖天照大神が、天壤無窮の神勅を下し給うて以来三千載、古今東西の歴史は、興亡幾變轉、誠に應接に遑なき匆忙と擾亂の連続であつた。が、單り皇祖が、「爾皇孫、就きて治めよ」と、たまはれたわが國においては、時に朝威の盛衰があつたにしても、皇統は連綿として皇基は不易、皇威燦として、今日の喜びを迎ふるに至つた

のである。申すも畏けれど、皇祖の神靈は、宸慮に基く天業が如何に雄偉に堅實に遂行され、擴充せられたか、あるかの現状をみそなはせられ「天壤と共に窮りなかるべし」と宣らせ給うたことが、眞に驚嘆すべき大豫言であつたことに、至大の御満足を感じさせ給ふであらうと欣仰し奉る。

若しそれ紫宸殿において、陛下が親しく、御即位の御旨を國民に御告げあらせ給ふ御仁慈と御謙徳に對しては、國民はたゞく感激して、いふべき言葉を知らぬのである。史を按ずるに、曾て孝徳天皇は、かの大化の詔において、「夫れ天地の間に君して萬民を宰むるは獨り制むべからず要す臣の翼を須つ」とのたまはれ、先帝大正天皇はその御即位に當り、「義は即ち君臣にして、情は猶父子の如く」と、仰せられた。この御言葉は、また歴代天皇の大御心であつて、その大御心が轉じて不文の憲章となり、國礎を磐石の安きに据ゑるに至つたは、國史の儼として、これを實證するところである。

御即位式は、かくして、古往今來何もにも阻まる、ことなく、人類の大道を濶歩して來たわが國民に對し、その國民的精神の、偽らざる姿を示すのである。この國民的精神は、一面において、新を追ふこと極めて急であつて、遠くは奈良平安の兩時代、近くは維新以來今日まで、外國の優秀なる文物を、

わがものとすることに於いて、焦躁に近い熱意を示した。が、如何なる場合にも、わが國民は、文明の坩堝であつて、外國文明の被征服者ではなかつた。國民はけふの佳き日をまたなき好機として、この尊き國民精神の獨立性を、いやが上にも愛撫し育成しなければならぬ。今上陛下も、朝見の儀と共に下し給うた勅語に、「模擬を戒め創造を励め」と仰せられた。國民はこの大御心を體して、新時代の創建に努めなければならぬ。

あ、清澄の秋の氣を心行くまで吸うて、國民が聲を限りに叫ぶ寶祚の無窮と聖壽の萬歳。洋々たる昭和の日本は、けふしも、その輝やかしいスタートを切る。

〔昭和三年十一月十日付東京日日新聞より抜粋〕

編集後記

毎日暑い日が続いておりますが皆様方にはますます御健勝の御事と存じます。

〔若竹〕24号お送り致します。本年十一月にはいよいよ世紀の御大典即位礼大嘗祭が行なわれます。國民こそつてお祝い申し上げるべく私共神青も一致団結して奉祝気運を盛り上げましよう。(久保)